

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和3年 2月 26日

公表: 令和6年 2月 28日

事業所名 児童発達支援事業所ぶらんこ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・利用定員は1日10名です。午前グループ5名、午後グループ5名を目安にグループ編成を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・基準を満たす職員を配置。また、加配職員を置き、お子様の状態に柔軟に対応できるようにしている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・遊び、お集まり、おやつなど、活動ごとに空間を分けている。 ・利用児が分かりやすいための配慮として、生活動線の整理や視覚情報の提示等を行っている。	・今後も、職員間で意見を出し合いながら利用児が過ごしやすい環境を検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・各グループの活動終了後毎に掃除、消毒を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・活動後の反省、定期的な職員会を行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・アンケートを実施し、職員会で改善点などの討議を行っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価及び保護者向けの評価表の結果をホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者による外部評価は行っていない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・月に1度、スーパーヴァイズ研修を行っている。 ・外部研修を受ける機会を設けている。	・今後も積極的に研修等に参加できる機会を設け、専門知識向上を図っていく。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・療育の実践や検査結果をもとに、計画の見直しを行っている。	・保護者と情報共有を行い、必要に応じて見直しを行っている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・専門職が必要な検査を行っている。	・今後も必要に応じて実施していく。

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・職員間でガイドラインをもとに話し合い、保護者にも説明を行っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・支援計画を確認しながら支援を行っている。 ・毎活動後に支援についての振り返りを行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・都度話し合うが、個人で考えることも多い。	職員会の中で年間計画を立て、それに沿って活動を行っていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・様々な活動を行っているが、時期によっては似た活動が多くなることもある。	遊びの幅を広げていくよう努めていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・集団での姿、個別での姿をもとに計画を作成している。 ・集団活動の中で、それぞれ発達段階に応じた個別的な対応を行っている。	・適切に子どもの状態を捉えるために、専門知識を深めていくよう努めていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・毎活動前に打ち合わせを行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・毎活動後、職員全員で振り返りを行っている。	・お互いに意見を出し合い、よりよい支援ができるよう努めていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・毎活動後、振り返りとともに記録をとっている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・年に2回家族面談を行っている。 ・その他、必要に応じて面談を行っている。	
	関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・子どものクラスの担当職員が出席できるよう調整している。
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
23		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	
24		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当なし	
25		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			該当なし 保育所やこども園への移行支援の対象者はなし。	

関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年長児の学校見学を行っている。 ・事業所主催の就学連絡会を開催し引継ぎを行っている。 ・移行支援シートの作成を行っている。 ・就学後の保育所等訪問支援を実施予定。 	・小学校や放課後等デイサービスなど、関係機関とさらに連携を深められるように努めていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・障害児等療育支援事業の利用。 ・児童発達支援センター主催の研修会への参加。 	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	・並行通園のため、特に行っていない。	・今後要望があれば検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・職員が子ども部会のコアメンバーになっている。 ・子ども部会の情報交換会に参加。 	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・定期的に家族面談を行っている。	・保護者との信頼関係を大切に、さらに共通理解が図れるよう努力していく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・年に2回、外部講師を招き保護者向けの研修会を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学習会の開催を予定している。 ・よりよい保護者支援が行えるよう、今後も内容や開催時期、回数等について検討していく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に説明を行っている。	分かりやすい説明になるよう努めていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・計画の説明の際に、ガイドラインを提示し説明を行っている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・家族面談の中で相談に応じる場合もある。 ・その他、必要に応じて応じている。 	・適切な支援が行えるよう、専門的知識を深めていくよう努めていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に年2回の茶話会を実施。 ・学習会後に茶話会を実施。 	・今後も、保護者同士が関わる機会を作れるよう検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・適宜、時間を設けて対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個別に写真を渡し様子を伝えている。 ・行事予定は出している。 	・保護者に活動内容や子どもの様子が伝わるよう、情報発信について検討していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	・現在のところ、地域住民を招いた行事は行っていない。	・要望等あれば検討していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・各種マニュアルを作成し、保護者が閲覧できるよう玄関に設置している。	

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・年に2回避難訓練を行っている。	・災害時に対応できるよう、回数や実施方法等を検討していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・アセスメント面談で、健康面の確認を行っている。 ・看護師を中心に対応を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			対象児なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・今年度から、ヒヤリハット事例集を作成。活動の事例があった場合は、反省時に共有し記録している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・職員会の中で実施。	・外部の研修等にも参加していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・危険回避のため身体拘束を行う可能性があるケースについては、支援計画に記載し、保護者に説明を行い、同意を得ている。	・保護者への説明を丁寧に行っていく。 ・危険回避のための対応については、職員間でよく話し合い検討していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。